

深層混合処理工(高圧噴射攪拌工) 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

令和3年11月現在

工法比較表対象技術 新規対象技術(調査中) 削除技術

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類2 Lv.2	分類3 Lv.3	分類4 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況(本省)	掲載期間終了技術(終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HPリンク先(注)	
1	OPTジェット工法	KTK-100011	VG	本技術は、高速施工により幅広い改良体径(φ1.3~φ4.2m)を効率的に造成する工法である。その結果、スラリー噴射量が少量となるため低排泥・低変位を実現することができる。本技術の活用により、経済性の向上および工期の短縮が期待できる。	工法	港湾・港湾海岸・空港	陸上地盤改良工	固化工	深層混合処理工	[活用促進] (2016.9.8~)	有	◎ (R3年3月)	削孔・造成マシン30kW 九州内:2台(福岡県)、九州外:20台(全国)、超高圧ポンプ(硬化材用) 九州内:1台、九州外:35台(全国)、スラリープラント 九州内:5台(福岡県)、九州外:30台(全国)				
2	JEP工法	SK-100012	VG	本技術は、高圧噴流スラリーを大容量かつ高エネルギーで噴射するため、従来の高圧噴射攪拌工法に比べて大口径の改良体が造成可能である。本技術の開発により短時間で効率的な施工が可能となる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[活用促進] (2015.9.18~)	有	◎ (R3年3月)	削孔・造成マシン30kW 九州内:2台(福岡県)、九州外:20台(全国)、超高圧ポンプ(硬化材用) 九州内:1台、九州外:35台(全国)、スラリープラント 九州内:5台(福岡県)、九州外:30台(全国)				
3	FTJ-FAN工法	HR-140015	VR	本技術は地盤改良技術であり、従来は高圧噴射攪拌工(二重管工法)で対応していた。本技術の活用により、噴射圧力等を上げることで任意の扇形や矩形の改良体造成でき、既設構造物直下の改良も可能となり、改良体の施工本数低減によりコスト縮減が期待できる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工		有		超小型施工機(12t) 九州内:0台、九州外(滋賀県):5台、小型施工機(25t) 九州内:0台、九州外(滋賀県):5台、ボーリングマシン 九州内:0台、九州外(滋賀県):2台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-140015&ZD		
4	Megaジェット工法	KTK-160023	A	本技術は、上段・下段の二段ジェットにて構成されており、超高圧硬化材噴射とそれに沿った空気噴流体によって破砕効果を十分に発揮させ、大口径かつ高品質である改良体を比較的短時間で造成する工法である。	工法	港湾・港湾海岸・空港	陸上地盤改良工	固化工	深層混合処理工				超高圧ポンプ 九州内:10台、九州外(東京都、大阪府):40台、Megaジェットマシン 九州内:20台、九州外(東京都、大阪府、愛知県、宮城県、北海道):130台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-K-160023&ZD		
5	NJPEエヌ・ジェイ・ピー工法シリーズ	KT-160120	A	本技術は、液状化対策用に圧縮空気を連行させた多重超高圧噴射攪拌工法で、従来は高圧噴射攪拌工(二重管工法)にて対応していた。本技術の活用により、改良径が1.8m~4.5mに拡大され、施工期間の短縮、コスト低減、発生土量(産業廃棄物)の低減が図れる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工				NJPMシン 九州内0台、九州外20台(千葉県)		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160120&ZD		
6	JETCRETE(ジェットクリート)工法	KT-170003	A	本技術は、高圧噴射による強度や改良径、形状等を任意に設定できる地盤改良工法で、従来は高圧噴射攪拌工法で対応していた。本技術の活用により、必要最低限の改良強度と効率的な形状や任意による合理的な設計・施工が可能になり経済性、施工性が向上し環境負荷も低減する。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170003&ZD	
7	レスピンコラム工法	KT-170026	A	本技術は、高圧噴射を併用した機械攪拌工法で、従来は高圧噴射攪拌工法(多孔管工法)で対応していた。本技術の活用により、排泥(産業廃棄物)を少なくすることが可能になり経済性の向上や環境への影響抑制が図れるとともに、クレーン等を必要としないため安全性も向上する。	工法	共通工	軟弱地盤処理工	固結工					クローラ型、スキッド型 九州内0台、九州外2台(埼玉県)		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170026&ZD		
8	X-jet(クロスジェット)工法	KT-990495	VG	本技術は、交差噴流という要素技術を導入し改良径を一定にする地盤改良技術で、従来は単一噴射であるため土質性状の異なる地盤での一定径の造成が不可能であった。本技術の活用により、硬化材、産業廃棄物の減量化をはかり均一な材質の改良体の造成が可能になります。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[設計比較]	有	◎ (H29年10月)	ボーリングマシン・施工機 九州内:0台、九州外:37台(神奈川県)、超高圧大容量ポンプ 九州内:0台、九州外:15台(神奈川県)				
9	LDis(エルディス)工法	KT-980135	VG	本技術は、高圧噴射工法と機械攪拌工法を併用する周辺地盤変位低減型の高圧噴射地盤改良工法で、従来は高圧噴射工法(二重管工法)にて対応していた。本技術の活用により、周辺地盤の変位低減、排泥低減、コスト削減が期待出来る。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[H26準推奨] [活用促進]	有	◎ (H29年4月)	同社工法SJMM工法(KT-020006-V)、SMM工法(KT-030041-V)と同一の施工機 九州内:0台、九州外(千葉県):60台				
10	Superjet(スーパージェット)工法	KK-980026	VG	本技術は、地中に直径2.5m~5.0mの地盤改良体を造成するもので、従来技術では直径2.0mまでが限界であった。本技術の活用で、単位時間当りの改良土量が従来技術の0.5~8倍の急速施工を可能とし、副次的な効果として排泥量も約半分以上減量化できる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[設計比較]	有	◎ (H29年4月)	SUPERJET25、SUPERJET35施工機 九州内:0台、九州外:30台(神奈川県)、SUPERJET50施工機 九州内:0台、九州外:7台(神奈川県)、超高圧大容量ポンプ 九州内:0台、九州外:15台(神奈川県)				
11	エフツインジェット工法	QS-040034	VG	回転ヘッド先端の攪拌翼から、高圧セメントスラリーを2流線に噴射することにより、高速で大口径改良体を造成する高圧噴射攪拌工。間詰りや掘削地盤改良などの接合工で、大幅なコスト低減と工期短縮を図ることができる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[活用促進]	有	◎ (H29年4月)	小型施工機(ボーリングマシン) 九州内:0台、九州外(滋賀県):2台、標準施工機(12t) 九州内:0台、九州外(滋賀県):5台、標準施工機(25t) 九州内:0台、九州外(滋賀県):5台				
12	SJMM(エス・ジェイ・エム・エム)工法	KT-030041	VG	本技術は、特殊ヘッドによる機械的攪拌効果と高圧ジェット噴射による攪拌効果とを組み合わせて、高速で大口径改良体を造成する高圧噴射攪拌工(単管工法)にて対応していた。本技術の活用により、施工本数の減少、施工期間の短縮ができコスト縮減が可能。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[H26準推奨] [設計比較]	有		同社工法LDIS工法(KT-980135-V)、SMM工法(KT-030041-V)と同一の施工機 九州内:0台、九州外(千葉県):60台				
13	SMM(エス・エム・エム)工法	KT-020006	VG	本技術は、汎用小型の施工マシンを使用し、超高圧固化材スラリーを噴射させることにより、高速で大口径改良体を造成する高圧噴射攪拌工(単管工法)にて対応していた。本技術の活用により、施工本数の減少、施工期間の短縮ができコスト縮減が可能である。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工	[H26準推奨] [設計比較]	有		同社工法SJMM工法(KT-020006-V)、LDIS工法(KT-980135-V)と同一の施工機 九州内:0台、九州外(千葉県):60台				
14	RMP工法(MSTタイプ・Jタイプ)	KTK-170005	A	RMP工法(MSTタイプ・Jタイプ)は、大口径タイプの地盤改良工法であり、従来技術の0.5~4倍の大口径改良(改良面積比)が可能である。MSTタイプはφ1600mmの大口径へが特徴としており、Jタイプは高圧噴射を併用することでφ2000mmまでの2輪改良が可能である。	工法	港湾・港湾海岸・空港	陸上地盤改良工	固化工	深層混合処理工				RMP-MST改良機:九州内に10台、九州外に70台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-K-170005&ZD		
15	SDM-Fit工法	KT-180050	A	本技術は、機械攪拌と噴射攪拌とを併用した大口径の高速低変位地盤改良工法で、従来は、スラリー攪拌工法で対応していた。本技術の活用により、高速・排泥量の低減によりコスト縮減、短時間で大口径改良体が造成出来施工本数が周辺環境への影響抑制が図れる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	セメントミルク攪拌工				処理機(リフト長30m):2台、SDM-Fit I ~ III駆動装置:6台、SDM-FitIV、V駆動装置:5台(千葉県)	[SDM工法]の後発技術	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-180050&ZD		
16	N-Jet工法	KT-200039	A	本技術は、軟弱地盤や液状化地盤等を強化する高圧噴射攪拌工法で、従来は高圧噴射攪拌工法(二重管工法)で対応していた。本技術の活用により、改良体造成時間の短縮、施工本数や建設汚泥発生量の削減が可能となるため、工期の短縮と経済性の向上が図れる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工				NJメーター 九州内:0台、九州外(大阪府):10台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200039&ZD		
17	SMM-Dy工法	KT-200140	A	本技術は、高圧ポンプを高機能化した高圧噴射地盤改良工法であり、従来は高圧噴射攪拌工法(単管工法)にて対応していた。本技術の活用により、短時間で大口径改良体が造成でき、施工本数が縮減されるため、経済性の向上が期待できる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200140&ZD	
18	LDIS-Dy工法	KT-200141	A	本技術は、周辺地盤変位低減型の単管式高圧噴射地盤改良工法であり、従来は高圧噴射工法(二重管工法)にて対応していた。本技術の活用により、排泥量の低減によりコスト縮減、短時間で大口径改良体が造成出来施工本数が縮減されるため、工期短縮を期待できる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200141&ZD	
19	SJMM-Dy工法	KT-200150	A	本技術は、機械的攪拌と高圧噴射攪拌効果を併用した単管式高圧噴射地盤改良工法であり、従来は高圧噴射攪拌工法(単管工法)にて対応していた。本技術の活用により、短時間で大口径改良体が造成でき、施工本数が縮減されるため、工期短縮、コスト削減を期待できる。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200150&ZD	
20	RTP工法(OPTタイプ・JEP-Gタイプ)	KTK-210003	A	本技術は、大深度対応型の二重管式高圧噴射攪拌工法であり、大口径かつ高品質である改良体を比較的短時間で造成する工法である。	工法	港湾・港湾海岸・空港	陸上地盤改良工	固化工	深層混合処理工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-K-210003&ZD	
21	低環境負荷型高圧噴射攪拌工法「SMM-Low工法」	QS-210021	A	本工法は高圧噴射攪拌工に関する技術である。独自の噴射装置および制御機構の施工機を用いた高圧噴射攪拌工であり、従来は高圧噴射攪拌工(単管工法)で対応していた。本工法の活用により、施工コストを抑え環境への負荷の低減が可能である。	工法	共通工	深層混合処理工	固結工	高圧噴射攪拌工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210021&ZD